

2020年10月11日
北近畿経済新聞(2面)に掲載されました



26 人を示すときは
指をそろえ
掌を上

手の心で紹介する

手とは便利にできているもので、ものを握るときは重さや大きさや材質によって、握り具合を瞬時に調節します。ペンを持つときも、人差し指は上中指は下にこのように、それぞれが立派な役割を果たします。

水が飲みたいときは両手を重ねてすくい取ることもできます。漉したいときには指と指の間を少し開ければよい。まぶしうるときは手をかさして陰をつくります。方向を示すときも手は便利です。

このときは人差し指を使うと明快です。でも、この癖が、人を示すときに用いられると失礼であり、生意気に見られ損をします。「こいつが……」といった表現をしているのと同じ印象を与えてしまいます。

「掌」は「手の心」という意味がルーツ。古語では手を「テ」と発音せず、「タ」といっていました。手を返して指をそろえて掌を上にして、人さまを紹介する動作を身につけましょう。

ちなみに当社ではねじを締めるロボット、産業機械の設計・開発をしているので、よく「手」には興味津々です。「手観音」の手といえは少ししい過ぎかもしれませんがアームの先端に様々なツールをつけて数多くの作業に適応させています。人間の手は、ものを取るにも「つまむ」「つかむ」「ささる」といった力の入れ方を瞬時に選択し、動作しています。この動作を細かく分類観察して、試行錯誤を重ねながら、ロボットの手をきこらないかたさからやわらかさに進化させていきます。

※「人生の「ねじ」を巻く77の教え」より転載



人生の「ねじ」を巻く77の教え

著者 日東精工株式会社企画室
発行者 株式会社ポプラ社
1,000円(税別)で販売中